

しまねっ湖



マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta*

CONTENTS

- 特集・春の特別展……………2～3
- ゴビウスのなかまたち……………4
- しまねの水辺紀行／シャッターチャンス！……………5
- みんなでたのしむいきものガイド……………6
- こらまたなんたら！／表紙の生きもの……………7
- 観察会報告／インフォメーション……………8

にょろにょろ ファミリー

開催期間:2018年3月14日(水)~5月7日(月)

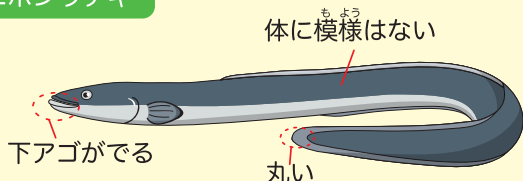
「にょろにょろ」した生きものってどんな生きものだろう？細長いもの？くねくねと動くもの？形や動きなどから連想されるさまざまな「にょろにょろ」を紹介！

おれたちっ！にょろにょろファミリー！！

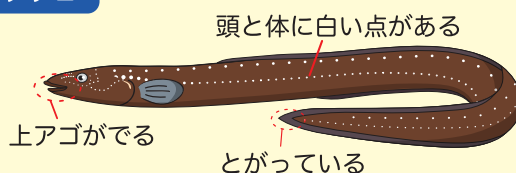
☆ウナギとアナゴどっちがどっち？！

食卓にならぶ有名な魚であるウナギとアナゴ。みなさんはこの2種類の魚を見分けられますか？

ニホンウナギ



マアナゴ



☆色あざやかなにょろにょろ

色とりどりのサンゴ礁には色あざやかなにょろにょろたちがくらしています！



ハナヒゲウツボ



チンアナゴ



ニシキアナゴ

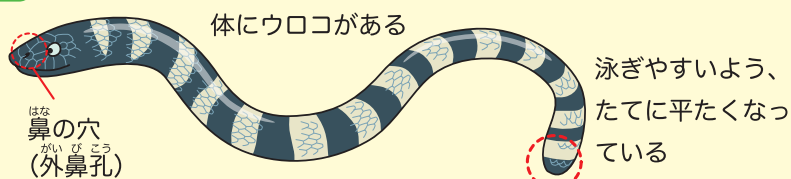
☆ウミヘビって魚？は虫類？

ウミヘビときくと、は虫類のなかまを思い浮かべるかもしれませんが、魚にもウミヘビと名のつくなかがいます。魚のウミヘビはウナギやアナゴに近いなかまです。

は虫類のウミヘビ

(エラブウミヘビ)

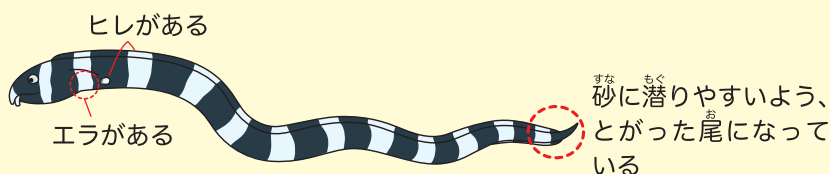
毒がある



魚のウミヘビ

(シマウミヘビ)

毒はない



ゴビウスの常設展

には、地中海でみられる魚のウミヘビがいるよ！



ホタテウミヘビ

おれらもまぜて！ によろによろフレンズ集合！！

フサギンポ

海藻の繁茂する岩礁域に生息し、岩のすきまや海藻のあいだに隠れています。一枚刃のようにみえるきれいな歯ならびで、ナマコやイソギンチャク、巻貝などをかみ切って食べます。

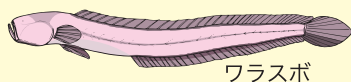


マダコ

体色はまわりの環境にあわせてよく変化し、胴にひし形の4つの大きな突起があるのが特徴です。危険が迫るとさらさらとしたスミを大量に吐き、敵の眼をくらまして逃げるための煙幕として使います。

によろによろはおいしいの？

「によろによろ」した生きものは食材としてもたくさん利用されているよ！身近な食材から各地の特産品などいろいろ。加工食品やスタッフが実際に試食した感想など、によろによろ食品について紹介しているよ！



ワラスボ

ワラスボの干物



噛めば噛むほど味がした！
おいしいけど、初めて食べようと思った人はすごいな！

特別展ガイドブック によろさんぽ によろ散歩 ～楽しみかたガイド～



ゴビウス渡り廊下でガイドブックを配布します。特別展会場まで、おすすめスポットを探しながら、によろ散歩してみては!? シャッタースポットなども紹介しますよ～♪

によろによろ診断

ガイドブックでは、「によろによろ診断」もできるよ～!あなたはどんな「によろタイプ」?

「オリジナルおりがみ」プレゼント

受付で診断結果の生きものの名前を伝えると「オリジナルおりがみ」がもらえるよ～
※おりがみプレゼントはなくなり次第終了します。



飼育係、とっておきの話 によろパクッ!?ガイド

によろによろファミリーの特徴を解説!
エサを食べる瞬間も観察できるかも!?

GWも!

特別展期間中の土、日曜、祝日
4/28(土)～4/30(月)、5/3(木)～5/6(日)
13時30分から開催! 20分程度





ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま ニホンイサザアミ

「イサザアミ」という言葉を初めて聞いたとき、どんな生きものなのか想像が付きませんでした。イサザと聞くと、琵琶湖固有種でハゼのなかまのイサザを思い浮かべていたのです。また、釣りのエサでもイサザという名前が使われます。このイサザは小さなハゼのなかま、シロウオを指すようです。

さて、本題のニホンイサザアミ（以下、イサザアミとします）ですが、成体の全長は1~1.5センチ程度で、日本各地の汽水域に広く分布しています。もちろん中海や宍道湖にも生息しており、大群が10メートル以上の帯状の塊になって、岸近くを泳ぐ様子は壮観です。姿形がエビに似ていますが、エビとは縁遠い生きものです。エビよりも殻が柔らかいのも特徴のひとつです。

宍道湖中海周辺では、イサザアミのことを「オダエビ」という地方名でよび、佃煮などで食されています。中海ではイサザアミを専門に漁獲する「オダ手繰網」が操業されています。人が食べて美味しいイサザアミを、宍道湖中海にすむ他の大きな生きもの

が放っておくわけがありません。群れで回遊するコノシロやサッパなどのほか、魚食性の強いスズキも好んで食べます。藻場では、サンゴタツやヨウジウオもイサザアミが近づいてくるのを待ち構えています。

魚釣りの世界では、魚が食べているエサを推測し、エサや疑似餌を選択します。豊富にいるイサザアミなどを食べている魚を狙って釣るときは小さなイサザアミを針に付けて釣るわけにもいかず、難しい釣りになることがあります。

（中野浩史）



水中をふわふわ泳ぐニホンイサザアミ

淡水のなかま カスミサンショウウオ

毎年、冬から春にかけてお客さまから「サンショウウオの子どもが庭先にいるけど、どうしたらいいですか」といった質問をいただくことがあります。見つけた場所や特徴を詳しく聞き、写真を見せていただくと、島根県の比較的低地でもみられる「カスミサンショウウオ」だと分ります。

カスミサンショウウオは、大きさ6~13センチほどの小型のサンショウウオのなかまです。尾の上下に黄色の縁どりがあるのが特徴で



カスミサンショウウオ

す。普段は森や雑木林の落ち葉の下などでくらしています。繁殖期は水がまだ冷たい12~3月で、この時期になると田んぼ脇の水路や湧水のある湿地などに集まります。そのため、人里近くにくらすカスミサンショウウオは、人目につきやすくなるのかもしれませんが。

ゴビウスでは両生類コーナーで展示しており、昨年（2017年1月）、水槽内で自然産卵させることができました。石の下に産んだ卵は、ゼリー状の袋につまった卵塊になっています。卵を数えると約70粒あり、半透明で中が透けて見えるため、卵の発生が進む様子を間近でじっくり観察することができました。今年は水槽内での産卵は確認できていませんが、早春のこの時期になると、カスミサンショウウオが気になる生きもののひとつになりました。

春の訪れは新しい命が誕生する季節です。ゴビウスの水槽では、今年、どんな生きものが誕生するのか今から楽しみです。

（桑原友春）



卵塊を見守るオス

しまねの水辺紀行 ⑤ うしおの沢池

うしおの沢池は、雲南市大東町の、棚田で有名な山王寺近くにあるため池です。この池は、周辺の棚田を潤す水源として、重要な役割を担っています。ゴビウスを管理運営しているホシザキグリーン財団は、地元の方々と協力して、外来種の駆除を行うとともに、在来種を放流して継続した調査を行っており、昨年からは私も沢池を訪れています。

昨年6月は、新緑が美しく、水辺には水草が茂り、メダカやカワムツが水面を泳いでいました。網で浅瀬を探してみると、ドジョウやイモリがたくさんいました。沢池にはゴビウスで繁殖した宍道湖産のワカサギも試験放流しており、12月中旬の極寒のなか、ボートを出して釣り調査をしてみる



6月の沢池

ことになりました。寒さのため、1時間程度の釣りでしたが、3匹のワカサギを釣ることができました。

昨年の調査は、12月で終わったのですが、私としては、その後の沢池の様子が気になっていました。そこで、2月の休日に思い立って、沢池の様子を見に行くことにしました。

前日まで寒波が来ていたため、車を雲南市の方へ走らせていくと、田んぼや河川敷は一面の銀世界でした。大東に近づくにつれ、積もっている雪の量が増えていき、だんだん不安になってきました。

国道から沢池にのぼる道もまだ、雪が残っていました。思い切って道を進んで行くと、わだちが深くなり、立ち往生する危険があったので、車を止めて、歩いて道を確認することにしました。すると、地元の人が坂道で止まっていたので、周りにいた人たちと協力してなんとか動かし



沢池へ続く道路（自分の車を止めました）

私の方とはというと、雪が深くて、たどり着けないことが分かったので、引き返すことにしました。なんだか、人助けをしに行ったような1日でした。またの機会に、雪の積もった沢池を見に行きたいと思います。

（山口勝秀）



冬の沢池（1月に撮影されたもの）

シャッターチャンス！

魚たちも水中で大きな口を開けてあくびをします。エラに付いた汚れを落として、きれいにするためではないかと言われています。魚のあくびを見ていると、つい自分もつられてあくびが出てしまいそうになる瞬間でした。

（浅津紳司）



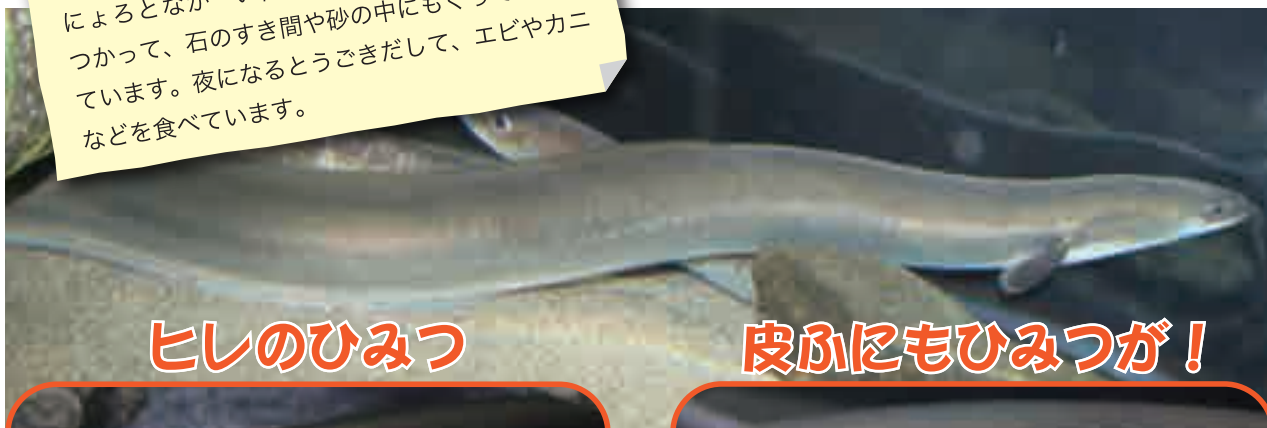
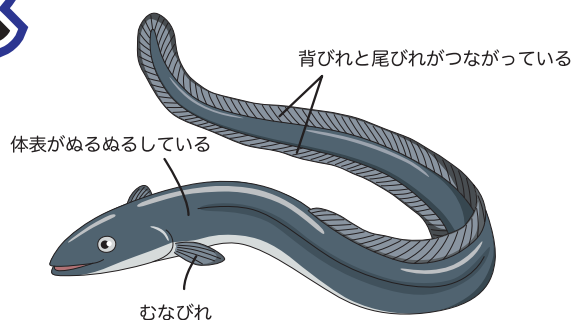
ダイナンギンポ



ウナギのひみつ

なまえ：ニホンウナギ
生息地：日本各地の川や湖

ウナギの特ちょうは、なんといっても、
 によろとなが〜い体です。この体をじょうずに
 つかって、石のすき間や砂の中にもぐってくら
 っています。夜になるとうごきだして、エビやカニ
 などを食べています。



ヒレのひみつ



ウナギのひれはひとつにつながっています（むな
 びれをのぞく）。いつもはあまり動かないけど、
 このひれをひろげて、じょうずにおよくことも
 できるよ。

皮膚にもひみつが！



ウナギの皮膚は、ヌルヌルしているよ。ウロコが
 ないように見えるけど、ほんとは小さなウロコ
 が皮膚の中にうまっているよ。

なが〜い旅のひみつ



ウナギは、大きくなると川をくだって、ながい旅に
 でるよ。めざすのは、日本のはるか南の海。そこで
 は、たくさんのウナギがあつまって卵をうむと考
 られているんだ。

ウナギは、とてもチカラもち？！



めだめはによろによろとほそながくて、弱そう
 なウナギ。でも、じつはとてもチカラもちだよ。
 石のすき間などにもぐりこむ時、じぶんの体より
 も大きな石もうごかすことができるんだ。

こらまたなんだら! 其の十五 ハタハタ

有名テニス選手のひと言から、島根のノドグロが一躍、全国区となりました。脂分のバランスが抜群で、どんな料理にしても、その持ち味を発揮できる万能食材なのですが、最近は少々値が張るような気がします。そこで、より安く気軽に島根の魚を楽しみたい、という方におすすめなのがハタハタです。ハタハタといえば秋田県の名物料理としてあまりにも有名なため、県外のお客さんに出すと「お取り寄せ?」と聞かれるのがちょっと悔しいですが、実際に食べてもらおうと、上々の評価をいただけます。

ハタハタは、冬になると沿岸に集まってきて海藻などに卵を産み付けます。秋田県ではお腹が卵でいっぱいになるこの時期のハタハタを主に漁獲し、卵もブリコと呼ばれて賞味されます。一方、島根県

では、それ以外の時期に獲れるものが中心で、卵を持ったものはあまり出回りません。秋田では卵を楽しみ、島根では身を楽しむ、ということになるのでしょうか。特に、春に島根で獲れるハタハタは脂の乗りが抜群で、煮付けにしたり一夜干しを軽く炙ったりすると、ノドグロ顔負けの美味しさになります。

また、味もさることながら、水中を泳ぐハタハタは、意外なほどに大きなむなびれを広げ、背中模様もくっきりと浮き上がって、食卓に並ぶ姿からは想像できないほどの美しさです。機会があれば、ぜひ当館でも展示してみたい魚のひとつです。ノドグロに比べて格段に手に入りやすいハタハタ。春、島根を訪れた際には、ぜひご賞味ください。

(中畑勝見)



島根県産ハタハタ



ごく稀に卵を持ったものが混じる

表紙の生きもの マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta*

水田や湿地などに生息する5センチ程度の巻貝のなかまです。殻はかたく、膨らみがあります。

はい回りながら泥の表面のエサをすくい取って食べたり、水中の水をろ過して、ただよう小さなエサを食べたりすることもできます。

卵ではなく、小さなこども（子貝）を直接産み出します。

春になり、田植えのため、水田に水が張られるようになると、よく目にするようになります。俳句では、「田螺鳴く」という春の季語があります。

近年、たくさんのタニシの姿が見られる水田もすっかり少なくなりました。

(田久和剛史)



タニシの親子?

生きもの観察会報告

～「キラキラ貝細工をつくろう！」編～

2月の観察会は「貝殻」がテーマでした。はじめに地元の方になじみのある貝についてのお話と貝殻を使った実験をして、貝のくらしや殻のしくみについて紹介しました。そのあと、貝殻を小さく砕き、真珠層とよばれるキラキラしたきれいな部分を使って貼り絵づくりをしました。

いろいろな大きさや色の貝殻を組み合わせて、みなさんキラキラとかがやくすてきな貝細工をつくることができました。

(森永和希)



ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

4/22 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **4/8**

ふわふわブカブカ プランクトンのひみつ

プランクトンってどんな生きもの？形も動きもさまざまなプランクトンの世界をのぞいてみよう！



5/27 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **5/13**

カエルのい・ろ・は

かくれ上手なカエルをゴビウスの周りで観察してみよう！きみは見つけられるかな？



6/24 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **6/10**

目指せ！ザリガニ釣り名人！

ザリガニってどうやって釣るのかな？大きなザリガニ目指して、ピオトープ池に釣りに行ってみよう！



定員 申込先着**30**名

対象 どなたでも
(小学生以下は保護者の参加も必要)

お問い合わせ
お申し込みは **TEL 0853-63-7100**

開催2週間前から電話にてお申し込みください。
※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。

生きもの情報も発信中だよ！ <http://www.gobius.jp/>

3回参加で
プレゼント！ **ゴビウス・グリーンパーク・尺の内公園共通
観察会チャレンジカード**

ゴビウス・グリーンパーク・尺の内公園の観察会に参加するとスタンプを押します！スタンプが3つたまるとオリジナルノートをプレゼントします。

観察会の組み合わせは自由！



●GW期間中のお知らせ●

4月25日(水)～5月7日(月)まで休まず開館！

児童福祉週間

5月5日(土)～5月11日(金)まで小中学生入館無料

ただし、5月8日(火)は休館日です。

ご来館案内

●入館料／大人…500円(400円)

小中高生…200円(160円)

※()内は団体20名様以上の料金

●年間パスポート／大人…1,400円

小中高生…500円

ご家族で同時にご購入いただくと2割引になります。

大人1,120円、小中高生400円。

※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。

●開館時間／9:30～17:00(最終入館は16:30)

●休館日／火曜日、年末(12月28日～12月31日)

※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。

みなさんのご来館
お待ちしております。



●一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分 ●出雲空港より車で10分
●山陰道出雲インターより車で15分

●駐車場／100台(無料・トイレ完備)

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.61

発行日／平成30年4月10日

発行／島根県立宍道湖自然館ゴビウス(管理運営：ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称：島根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別：展示

登録番号：第073102040号

登録年月日：平成19年5月17日

登録有効期限：平成34年5月16日

取扱責任者：寺岡誠二



古紙/パルプ配合率
80%再生紙を使用

本誌は地球環境に優しい
植物油インキを使用して
おります。



植物油インキは、大気汚染の原因となる
VOC(揮発性有機化合物)の削減および
再生紙処理の優位性が高い成分です。